

背景要因を考慮した運転作業エラーのリスク評価手法の開発

宮地由芽子 柴田徹

本研究では、運転作業におけるヒューマンエラーの「発生し易さ（相対的な発生頻度）」と「最大の事故」の評価を組み合わせたりスク評価法を開発した。さらに、ヒューマンエラーの的確な防止のためには、（事象を把握するだけでなく）その誘発要因を把握すべきであることから、鉄道事業者での安全マネジメントの実施を支援するため、エラー事象に影響する誘発要因と事象に対するリスク評価の結果から、取組むべき管理法を提案した。

この結果（図参照），“どのような場面”における“どのようなヒューマンエラー”が“どのような頻度”で“どのような被害の”事故に繋がる可能性があるのかといったリスク評価から、対策の目的と効果に見合った優先順位を判断し、限られた時間・予算の中で効果的な対策の整備が可能になった。

（鉄道総研報告，2009年9月号）

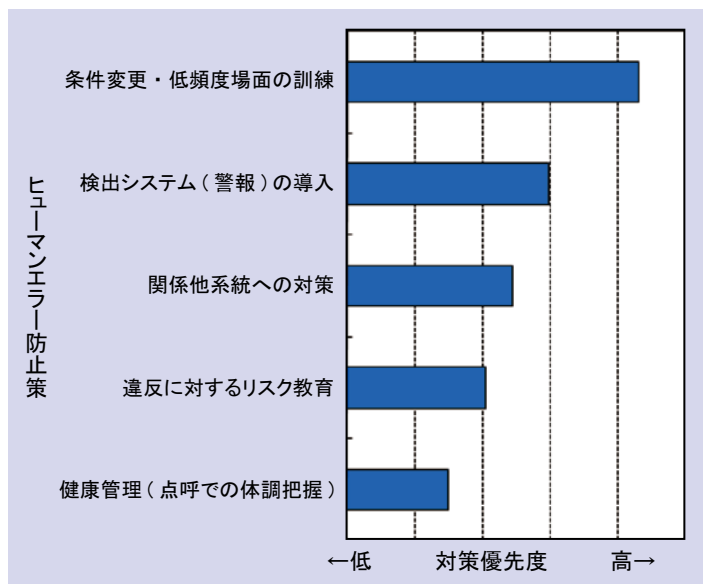


図 エラー防止策の優先度算出例（上位5つ）